

## 発達障害のそれぞれの 特徴と関係性

知的障害、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）注意欠陥多動性障害、学習障害の特性が重なり合う人もいます。

### 医学的診断名「知的障害」

言葉など知的な能力の遅れ

### 医学的診断名「注意欠陥多動性障害」

不注意・多動・衝動性などが主な特徴

こうはんせい

### 医学的診断名「広汎性発達障害」

自閉症、アスペルガー症候群

会話や想像力を働かせることが苦手

### 医学的診断名「学習障害」

知的な遅れはなく「読む」「書く」「計算する」

「話す」「聞く」等の能力の中でのつまづき

障害のある人への支援ツールとして

目の不自由な人には「白い杖」、

耳の不自由な人には「字幕」や「手話」、

脚の不自由な人には「車椅子」、

そして、知的障害・自閉症・発達障害の人には  
支援よりも先に「理解」が必要です。

知的障害の人が地域の一員として、  
楽しく暮らしていくために、  
理解者が少しでも増えることを  
願っています。



©川西市 2008

## 「ハンド in ハンド」の 知的障害者疑似体験啓発活動経歴

2016年10月19日 久代地区の関係役員会

(久代ホーム)

2016年11月1日 久代地区福祉委員会

2017年2月23日 多田地区福祉ネットワーク会議

2017年11月16日 ボランティアグループ「いずみ」

2017年11月24日 桜小地区福祉委員会

2019年1月22日 「セルフヘルプ」の講演会にて

2019年7月3日 川西市民生委員児童委員協議会

連合会障害援護福祉部会研修会

「ハンド in ハンド」  
とは川西市知的障害者  
疑似体験啓発キャラバン  
隊の愛称です。



©川西市 2008

(関係機関)

NPO 法人川西市手をつなぐ育成会

☎072-786-9244

(事務局 川西市滝山町7-7)

Email : ikuseikai4006@yahoo.co.jp

川西市障害福祉課 ☎072-740-1178

川西市社会福祉協議会 ☎072-759-5200

# わかってほしい!

## ぼくたち

## わたしたちのこと



©川西市 2008

川西のシンボル・キャラクターきんたん

知的障害といっても外見だけではわかりにくい  
ことも多く、人とのコミュニケーションが苦手  
で、社会的におかしな行動をとることもありま  
す。戸惑うことも多々あると思いますが、理解し  
て、温かく見守っていただけたらと思います。

## ハンド in ハンド

知的障害は、脳の一部に障害が生じたことが原因でおこると考えられています。知的な遅れがあり、そのために言葉を使ったり、記憶したり、抽象的なことを（頭の中で考えたりして）理解したりするのが難しいのです。

また、社会の仕組みや流れにうまく適応することが苦手で、暮らしにくさを抱えている人もいます。

ただ、知的障害だから何もできないわけではありません。一人ひとりの違いに合わせた必要な支援や言葉がけによって、出来るようになることもたくさんあります。

## 知的障害ってなに？

参考資料：たつの市「ぴーす&ピース」

### 抽象的な言葉は理解しにくい

たとえば「コップにちょっと水を入れてきて」の「ちょっと」という言葉は理解しにくく、どれだけ入れたらいいのかわからず不安になって出来ないことがあります。

### 具体的に伝える

コップに印を付けて、「この印まで水を入れてきて」というように具体的に伝えたり、身振りや絵などを見せて話すと伝わりやすくなります。

### 興味のある物しか見えていない

たとえば、キラキラ光る物が好きな人は、電車の中できらきらするアクセサリーをつけている人を見ると、その物しか見えず、触りにいってしまい、相手が迷惑な顔をしていても全く気が付きません。

### はっきり伝える

周囲の人に迷惑をかけている場合は「やめてください」と具体的な言葉ではっきり伝えてください。曖昧な言い方や表現では伝わりにくく理解できません。

中には芸術家として活躍されている方もいます。



川西市 2015

突然声をあげたり

ぴょんぴょんはねたり

体を揺すったりする人もいます。

不審に思ってしまうかもしれませんが

それは嬉しい時や嫌な時、不安な時など言葉で

表すことが出来なくて

体を使って感情を表現しているのです。

### 手先が不器用

道具を使うのが苦手な人が多く、ひもが結べない人や、字や絵が下手な人もいます。指先を少しあまらせて軍手を数枚はめると不自由に感じます。それが障害のある人が感じている感覚といわれています。

### ゆっくりゆったり見守る

不器用な人は上手くできなくて失敗してしまうことが多いのです。

まずは手先の不器用さを理解し、ゆっくりゆったり取り組めるような言葉がけをしてください。また、声をかけることで気が散って、上手くできない人もいます。そういう人には、黙って見守るようしてください。

障害にも個性があり、その人その人で違います。外見ではわかりにくいことも多いのですが、同じ目線で話しかけてみてください。その人をよく見ることで、一人ひとりの特徴や支援の仕方が見えてくると思います。